

こんにちは。きゅうしょくカンガルー！（奈良の学校給食を考える会）です。
暖冬と思われたこの冬も、ついに本格的な寒さを迎え、そしてもうすぐ立春。
私たちは、今年もおいしい給食&ほんとうの食育をめざして活動しています。

このメルマガは、私たちの活動や奈良県内の給食をめぐる状況をお知らせしたく、
今までの活動の中で連絡先を交換させていただいた方を中心にお送りしています。
メルマガ解除をご希望の方は、お手数ですが、
oishiikyusyoku@gmail.com まで解除希望の旨をお書き添えの上ご連絡ください。

■ ■ もくじ ■ ■

- 1 団体会員紹介③ 健一自然農園
- 2 イベント情報

■ 1 ■ 団体会員紹介③ 健一自然農園

健一自然農園の伊川健一さんにお話を伺いました。

健一自然農園は、2001年耕作放棄茶園を借りての野菜づくりからスタートされ、
2006年に茶専業となり、現在10haを超える茶園でお茶づくりをされています。
農業・福祉・教育連携での「自然茶未来」、農業・医療・大学連携での「薬茶園
構想」、お茶の葉だけでなく花や実も活用する農商工連携でのコスメ開発など、
お茶を中心とした多面的な展開をされています。

伊川さんが様々な事業や活動をされる根底には、15歳のときに決意された人生の
目的があります。それは「人が自然と調和して生きる、その雛形になる」という
もの。それはつまり、自分の思いという「横糸」を、この社会や経済の仕組みや、
自然界の摂理といった「経糸」に通し、一枚の布を織っていくということでした。

●人と自然が調和して生きるということ

茶畑は、山と畑の間にあたる環境、お茶の仕事は、いわば小さい森を管理するよ
うな仕事だといえます。健一自然農園の茶畑の一部は「県立自然公園」の中にあ

り、珍しい蝶が生息していたり、雉が卵を産んだり、山の自然林と茶畑が環境的につながっています。そんな山の自然林の下草を刈って肥料として使ったり、薪をとってお茶を焙じたり、山の材を暮らしやお茶づくりに取り入れた集落を作りたいという夢があります。山の材を使わせてもらうことで、人の暮らしは豊かになり、山も生態系を守れる、そんな循環型製茶業や村づくりを目指しています。

そして、農薬や肥料から脱却し、自然のサイクルに沿った自然栽培のお茶を、誰でも当たり前前に飲めることが大切だと考えています。だから、必要に応じて機械設備を導入し、手の届く価格で販売すること、学校・病院・公共施設などでも自然栽培茶を飲めるようにすること、今は慣行栽培をしている人にも意識や技術を伝え、自然栽培の輪を広げることなど、「自然茶というインフラ」を整備したいと思っています。

●人と人が調和して暮らすということ

日本では、建具屋は障子を張らず表具店に頼むように、昔から細分化された分業体制で産業が成り立ってきました。これが資源を無駄にせず、人と人が協力する社会を作りだしてきました。

例えば、新規就農する人は少量多品種を作るのではなく、ぐっと絞って冬は大根、夏はナスだけつくる。そのかわり、大根を5種類つくる。大根と限定していれば土づくりもやりやすいし、例えば漬物屋さんにどんな大根がほしいか聞いてつくる、おでん屋さんにどんな大根がほしいか聞いてつくるなど、売り先を絞ってマーケティングして作ることができます。流通の仕組みが構築できたら、規模を拡大し遊休農地をもっと活用することもできるし、大根向けの土の科学スペシャリストにもなれるし、大根博士として小学校に授業に行くようなこともできる。専門性を高めることは様々な可能性を広げてくれます。

そして、家庭の食卓は大根とナスだけでは成り立たないので、他の農家と協力することになります。「自分を生かし、他を生かす」ことを社会で表現するということは、自分という「布」と他の人という「布」がパッチワークのようにつながりあう社会をつくる、と言い換えることができるのではないのでしょうか。

●こどもを思う気持ちで、大人に笑顔が灯ること

例えばローンを組んで何千万円もの家を買って、35年後に残ったのはすべて土

に還らないものばかり・・・そうではないお金の使い方、暮らし方もあるのではないか。暮らし方、お金の使い方を具体的に変えられるモデルになりたいと思っています。

古くから住む人と、新しく住みたい人がお互いに対立するのではなく、ゆずれない大切なものは何か、歩み寄れる部分はどこか、編集し、共存できる状況をつくることで地域を活性化することができる。

こどもの食べ物を本来の食べ物に変えることで、こどもたちの腸や脳を元気にしようとする共通の目標をもつことで、みんなが協力して、奈良の農業をよりよくし、こどもたちの給食を変えることができる。

大切なのは、地域にこどもが入ってきた時、自分たちの作ったものをこどもが食べてくれた時に、大人の気持ちがほころぶこと、笑顔が灯ること。これが変える意味であり、仕組みと思いがきちんと織られた証といえるのではないのでしょうか。

生きている以上、成長し続け、生命を使い果たして、自然に循環していきたいという伊川さんの挑戦はまだまだ続きます。

■2■ イベント情報

◇映画「100年ごはん」上映会

日時：2016年3月21（月祝）

場所：パナソニック㈱アプライアンス社内中央厚生棟2階講堂

詳細：<https://www.facebook.com/mirainokodomonosyoku/>

●来月もお楽しみに♪●

メルマガ発信元：きゅうしょくカンガルー！（奈良の学校給食を考える会）

E-mail：oishiikyusyoku@gmail.com

facebook：<https://www.facebook.com/oishiikyusyoku>

（メルマガのバックナンバーも順次掲載しています）

事務局：生活協同組合コープ自然派奈良内（奈良市今市町40-1）
